



1. おちた YS-11
2. 北国は工業，南国は農業
3. 海水浴場でのつぶやき

1. 5年ぶりの航空機事故，大惨事が起った。事故が発生すると，いつものことだがその原因について，世のいわゆる識者たちがいろいろ批判を加えている。今回もその例に洩れず，地方空港の整備の不十分さに論議が集中している。日本では飛行場というものは国がつくり，その運営を国または地方自治体が分担しており，各航空会社が使用料を払って利用している。今回の事故があった函館空港は滑走路も短く，誘導装置もなく，管制官もいないという。せめて管制官の配置の義務づけを，国ができないというなら，どうして航空会社に強制することができないのだろうか。それで採算が合わなく飛行機を飛ばすことができないならそれでもよいと思う。このようなことは，いわゆる公害産業にも共通することである。日本は経済大国といわれ，産業の発達は世界のトップクラスということだが，他の先進国にくらべて諸産業の公害対策に当てる費用の生産高に対する割合は非常に少ないという。政府は「人間最優先の政治」ということを常に公言している。だから，政府は現在の大企業にしか向いていない顔を少しは国民のほうへ向け，産業および交通機関等に対して，その安全基準をきびしくすべきである。そのため，一時的には多少の不自由・不便のため国民からも非難されるかも知れないが，青い空が拡がり，川に魚が住むようになり，人間の生命の安全のために努力していることが理解されれば，その非難は称讃の拍手に変わることだろう。

[S]

2. 今年は東北地方の気候は少々異常続きで，とくに春になって寒い日が多く，苗代の苗は育たず，果物の花も十分に受粉ができない始末です。お蔭で今年は，山形名物のさくらんぼもうも少ないし，他の果物類も不作で，お米の減反政策も加わって自殺する方までで始末になりました。いかに農業技術が発達したとはいえ，結局植物は，とくにお米といったような物は十分な日光と気温といったものが，あればあるだけよいように素人目には思われます。

さてこのような目で日本全国を見まわしますと，不思議なことに，比較的農業に適した地方で工業が盛んで，東北・北海道といった農業に不向きな地方で，かえって日本の食糧基地になろうという声が出るくらい，現在のところ農業に重点がおかれている。工業のほうはどちらかといえば寒い地方向きの産業といえるだろう。そこで，ここで一番，日本の産業地帯地図を大きく塗り変える大計画を試みたらいかかなものだろうか。日本の工業の大部分を全部北国に持ってきて，関東以西の農業適地は全部農業を能率よく行なう。全世界的に見れば決して十分とはいえない食糧を増産し，美しい野山を取り返し，北国は原子力発電による全地域暖房を楽しみながら働くという一石二鳥の案のようにも思えるのですが……。

[J]

3. 夏も盛りとなり各地の海水浴場にもぎわっているが，水の澄んだ場所は毎年少なくなっている。湘南海岸でも塩素殺菌によって大腸菌は減っているが，他の汚濁物質は昨年よりもふえていると推定される。汚染の原因は河川からの排出物によるためと考えられているので，下水道の整備が解決策と考えられる。しかし，実態を調べると東京周辺への人口の集中が根本原因であり，都市計画にも関連している。このような環境保護の問題は総合的に解決することを必要とするが，実際に行なうことは非常に困難である。それは，社会の組織が縦割りになっており，会社や官庁においても自己の組織内で問題を解決しようとし，他と協力することは眼中にないためである。これを補うものとして市町村の果たすべき役割は大きい，人や予算が伴わず苦勞しているのが現状である。これらの状況を解消してゆくことは非常にむずかしいだろうが，われわれとして考えられることは，まず官庁・会社などの枠にとられわれないことが，また大きく見れば土木技術者であるという考えを捨てる必要があるであろう。とくに環境汚染のように種々の現象がからみ合っている問題に対しては総合的に解決しなければならず，広い視野にたって検討すべきであろう。

[C]